

**重点課題**

**【課題1】** A問題では「書く」項目の通過率が76.5%であるが、B問題では「書く」項目の通過率が35.0%である。そのうち1三「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」という趣旨の問題の通過率は16.0%であった。正当に必要な二つの根拠のうち、どちらか一方しか示していない解答が46.6%であった。

**【課題2】** 「言語」の領域において、文脈に即した「適切な語句を選択」することに課題がある。8三エ「彼はせきを切ったように話し始めた」(正答率32.7%) 8三オ「意見の折り合いをつける」(正答率53.3%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

**【課題1】** 自分で情報を整理・分析して文章を書くことに課題がある。授業で「目的に応じて文章を読むこと」や「内容をよく観察し、分析すること」、「情報を整理して書く」という趣旨の課題に取り組ませる。さらに、小グループで取り組ませることにより、客観的に自分の考えを見直させる。

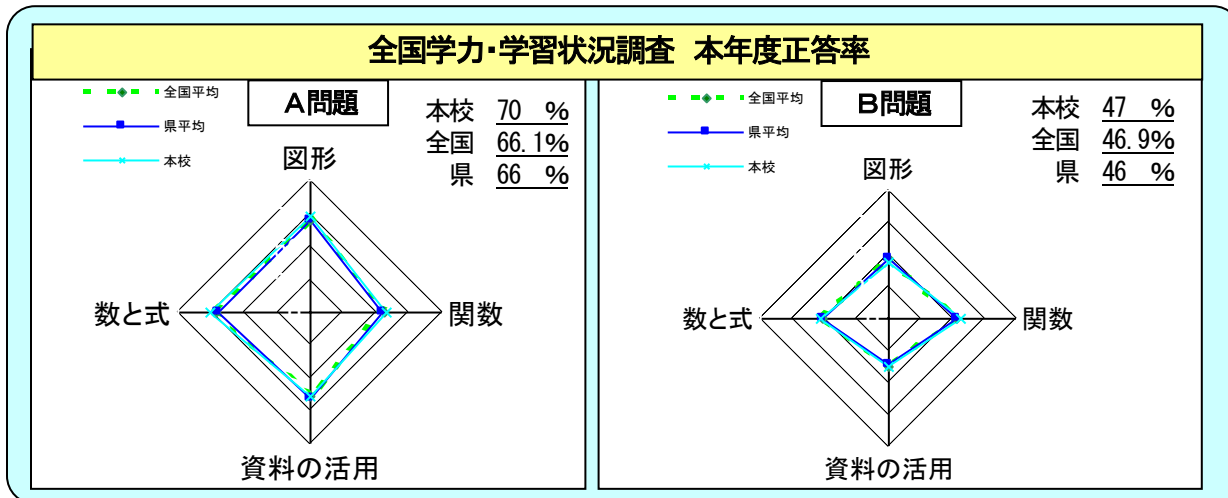
**【課題2】** 語句の意味を、辞書を使わせながら確認させる時間を設ける。連語や慣用句などの復習の時間を設ける。

\*広中央中学校校区で育成したい資質・能力を意識した授業作りをさらに進めていく。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てとして、課題発見・解決学習と体験活動に取り組む。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	課題テスト	中間テスト					
目標値	50%	60%					
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		小テスト	小テスト	小テスト			
目標値		60%	65%	70%			
実施後数値							

**来年度に向けて**



**重点課題**

【課題1】A問題11の(1)「一次関数 $y=ax+b$ について、 $x$ の値に伴う $y$ の増加量を求める」問題では、正答率48.5%と低く、無回答率は12.9%であった。無回答であった生徒の多くは、増加量の意味が理解できておらず、傾きと変化の割合を関連付けることができなかつたと考えられる。また、その他の「数学的な表現の意味」を問う問題でも同様の傾向がみられた。

【課題2】B問題5の(2)「計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明する」問題では、正答率が7.9%と著しく低かつた。多くの生徒は、必要な情報を読み取ることができず、式の意味を理解できていなかつた。また、根拠を示しながら、数学的な表現を用いることにも課題があると考えられる。

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）**

【課題1】授業の中で、1・2年生の学習内容を振り返る小テスト（5問程度）を実施する。類似問題に繰り返し取り組むことで、基礎的な知識の定着を図る。重要語句や定理などの既習事項を黒板に掲示し、すぐに振り返ったり、確認したりできる環境を整える。

【課題2】長い文章題など情報が多い問題では、線を引く、図や表に表しなおすように指導する。また、授業では、自分の考えを記述する時間を確保し、全体で共有する機会を増やす。ポイントとなる表現については繰り返し指導し、定着を図る。

\*広中央中学校校区で育成したい資質・能力を意識した授業作りをさらに進めていく。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てとして、課題発見・解決学習と体験活動に取り組む。

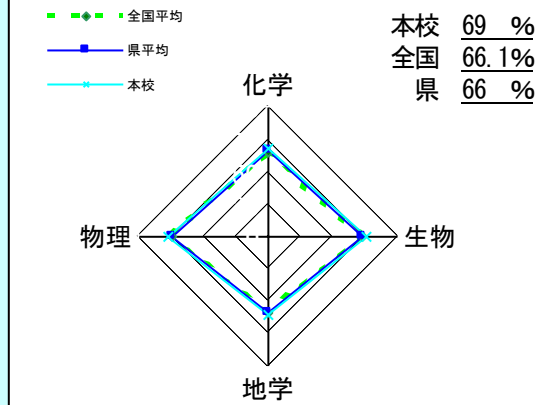
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	課題試験	中間試験	期末試験		学年末試験		
目標値	60%	65%	70%		75%		
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		中間試験	期末試験		学年末試験		
目標値		50%	60%		70%		
実施後数値							

**来年度に向けて**

(Blank area for next year's plan)

全国学力・学習状況調査 本年度正答率



重点課題

【課題1】

「選択式」、「短答式」、「記述式」の問題形式の正答率を比較すると、「選択式」の72.1%、「短答式」は77.4%であるのに対し、「記述式」は54.5%であった。その中でも、植物の蒸散と湿度に関する知識・技能を活用する問題（植物を入れた容器内の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題）の正答率は19.5%であった。

【課題2】

正答率72.1%であった「選択式」の問題の中で、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する問題の正答率が32.9%であった。  
※いずれも、知識・技能を活用する問題の正答率が低い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

知識・技能を定着させることを意識し、授業開始3～5分を用いて、前回の授業の復習をプリント形式で行う。また、定期テストなどで定着させた知識・技能を活用する問題を取り入れ、日常生活に見られる事象を結びつけ、自分に関することを意識させる。

【課題2】

習得した知識・技能を活用する問題を2択、もしくは3択などの選択式で作成し、小単元の振り返りや定期テストに取り入れる。  
\*広中央中学校区で育成したい資質・能力を意識した授業作りをさらに進めていく。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てとして、課題発見・解決学習と体験活動に取り組む。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	課題テスト	中間テスト	期末テスト		学年末テスト		
目標値	30%	40%	50%		50%		
実施後数値							

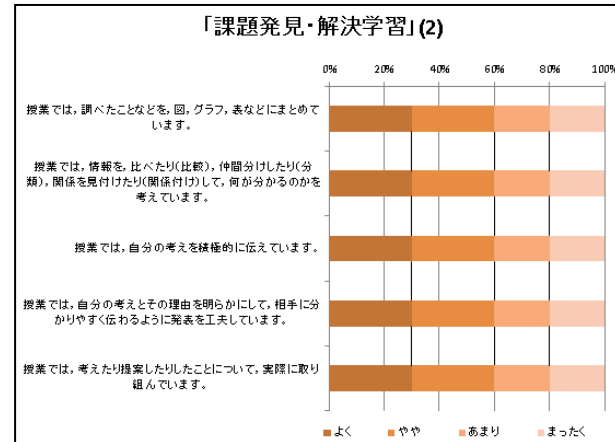
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	課題テスト	中間テスト	期末テスト		学年末テスト		
目標値	40%	50%	60%		60%		
実施後数値							

来年度に向けて

別紙4

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

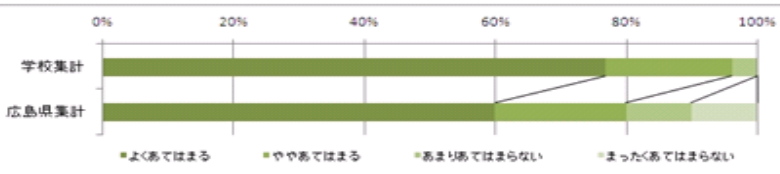
(1) 生活・学習



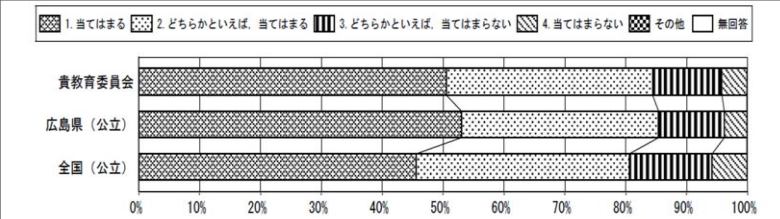
	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	○学校の授業の予習をするようにしています。(48.1%)	○家庭学習の一環として、次時の授業内容について教科書を読むなど予習することも意識させる。	2	55%	生徒アンケート	12月		
全国	○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか (3時間以上4.9%, 2～3時間22.1%, 1～2時間39.9%)	○進路を保障するため、学力補充の取組を行い、本校で取り組んでいる「週末課題」を提出させ、家庭学習の時間を90分以上にする。	3	80%	生徒アンケート	12月		

## (2) 教科

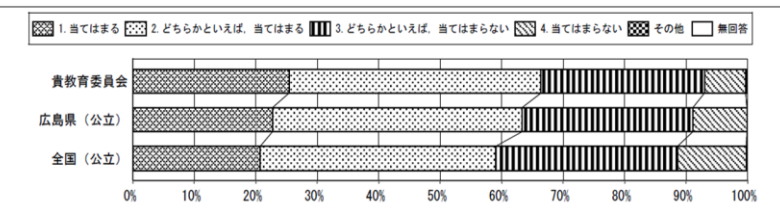
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



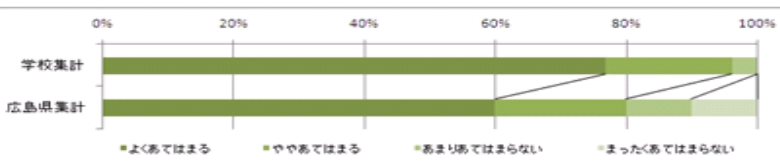
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。



理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



		生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本	○国語の授業では、少ない人数で学習する方がよくわかります。(44.8%)	○グループ学習など少人数で学習する機会を増やしていく。グループでの学習が進むよう手立てを工夫する。	2	75%	生徒アンケート	12月		
数学	基礎・基本	○数学の授業では、数学の授業はよくわかります。(66.9%) ○数学の授業では、少ない人数で学習する方がよく分かります。(61.7%)	○身近なテーマを扱うことで興味を引かせ、きめ細かな個に応じた指導を行う。 ○ペアやグループ活動を用いて授業の理解力をより高めていく。	2	75%	生徒アンケート	12月		
	全国	○数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えます。(50.3%)	○身の回りの現象を題材として用いて、学習した内容の活用例を共有する。	3	70%	生徒アンケート	12月		
理科	基礎・基本	○理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。(64.9%)	○ペアやグループ活動を用いて主体性・積極性を引き出すとともに、協働・強調する力を育成する。	2	75%	生徒アンケート	12月		
	全国	○理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。(43.5%)	○班などの少人数のグループ内で話し合い、その中で意見交流をする機会を積極的に設けるようにする。	3	55%	生徒アンケート	12月		
英語	基礎・基本	○英語の授業では自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。(61.7%)	○ペアトークなどで、自分の考えや気持ちを英語で話す場面を意図的、計画的に増やす。 その際、基本文の定着を図り、正しい表現ができるようにしていく。	2	70%	生徒アンケート	12月		

